

土地改良事業計画概要書

県営根小屋地区 区画整理

(経営体育成基盤整備「農地中間管理機構関連型」) 事業

第1回計画変更

< 目 次 >

第1章	目 的	1
第2章	地域の所在及び現況	1
第1節	地 域	1
第2節	地 積	1
第3節	現 況	2
第4節	地域環境の概況	9
第3章	基本計画	10
第1節	事業計画の要旨	10
第2節	営農計画及び土地利用計画	11
第3節	用水計画	12
第4節	排水計画	15
第5節	道路計画	17
第6節	農用地造成計画	17
第7節	農用地整備計画	18
第4章	工事又は管理の要領	21
第1節	工事の内容	21
第2節	管理の要領	21
第5章	換地計画の要領	22
第6章	費用の概算	24
第7章	効 用	25
第8章	他の事業との関係	25
第9章	計画概要図	25

第1章 目 的

本地区は、魚沼市の西部に位置し、地区の西側を流れる一級河川魚野川と東側の山地で囲まれた地形勾配1/83で形成され、昭和40年代に整備された10～20a区画の水田地帯である。

地区の用水系統は、一級河川破間川より取水する破間川右岸用水の他、支流河川を水源として取水している他、一部で溪流水によりかんがいを行っている。排水系統については、一級河川魚野川又は支流河川に自然排水している。

従来から営農体系は、集落を超え営農や用排水系統を一体的に管理している地域であり、より効率的で生産性の高い農業を行うために、地区内有志による新たな法人を設立し、今後、法人化への移行を予定している。

魚沼地域で比較的地形条件の良い本地区であるが、用排水路が造成後50年以上が経過し、至る所で漏水や不陸が発生していることから、用排水の適正管理が行えず用水不足が発生している。また、やや整形されている耕地であるものの、小区画であるがゆえに大規模経営の障害となり、集積がまったく進んでいない状況である。さらには、暗渠排水の施工もされておらず、いずれの耕地も排水不良により湿田状態となっており、園芸作物等の複合経営が実施されていない状況である。

以上のことより、安定した農業経営の実現と農地集積の加速化のために本事業の実施が急務である。

第2章 地域の所在及び現況

第1節 地 域

事業名	地 域
区画整理	新潟県魚沼市 根小屋、田戸、竜光、徳田

第2節 地 積

変更後：赤
変更前：黒

(令和7年3月現在)
(令和5年8月現在)

事業名	現況地目 市町村名	田 (ha)	畑 (ha)	道水路 (ha)	山林原野 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備 考
	魚沼市	48.4 48.8	1.1 1.1	6.7 6.7	0.1 0.1	0.4 0.4	56.7 57.1	
計		48.4 48.8	1.1 1.1	6.7 6.7	0.1 0.1	0.4 0.4	56.7 57.1	

第3節 現 況

1. 気象及び海象

(1) 一般気象

観測所名	小出観測所	かんがい期	非かんがい期	計 又は平均	備 考
観測期間	1976年～2022年	5 月 ～ 9 月	10 月 ～ 4 月		
平 均 気 温 (℃)		22.0	5.1	12.5	2013～2022年
降 水 量	平 均 (mm)	897.5	1,748.4	2,645.9	〃
	基 準 年 (mm)	563.0	1,595.0	2,158.0	2009年 (1/10確率渇水年)
降水日数	平 均 (日)	66	135	201	2013～2022年
	基 準 年 (日)	61	123	184	2009年 (1/10確率渇水年)
根 雪 期 間		1 月10日 ～ 2 月19日		41 日間	1991～2020年 新潟地方気象台
無 霜 期 間		4 月 1 日 ～ 11月26日		240 日間	〃
最 多 風 向		北西	最 大 風 速 (風向)	12.0 m/s (西)	最大風速発生年月日 1998.9.22

(2) 特殊気象

観 測 所 名 小出観測所	第 1 位			第 2 位			第 3 位			第 4 位			第 5 位			備考
観 測 期 間 1976年～2022年	数量	年月日	発生 確率	数量	年月日	発生 確率	数量	年月日	発生 確率	数量	年月日	発生 確率	数量	年月日	発生 確率	
最 大 日 雨 量 (mm)	234.0	2005.6.28	1/50	189.0	1978.6.27	1/30	188.0	1984.8.30	1/30	178.5	2011.7.28	1/25	176.0	2017.7.18	1/25	気象庁統計データ
最大時間雨量 (mm)	60.5	2013.6.8	—	60.5	2011.7.28	—	58.0	1998.7.29	—	55.0	1978.8.7	—	52.5	2017.7.18	—	〃
最大連続雨量 (mm)	724.0	1981	1/30	567.0	2005	1/10	550.0	1983	1/10	515.0	2014	1/7	457.0	2011	1/5	水文統計資料
最大連続干天日数 (日)	42	1985	1/500	31	1984	1/50	29	1976	1/30	28	2012	1/25	26	1983	1/15	〃

(3) 海象

該当なし

2. 地形、地質及び土壌

本地区の地形は、標高 76m～117mであり平均地形勾配は 1/83 となっている。

変更後：赤
変更前：黒

(1) 地 形

事業名	地目	田						畑・その他								受益地標高 (m)		備考
	傾斜 区分	1/1000 以下	1/1000 ～ 1/100	1/100 ～ 1/20	1/20 ～ 1/11.5	1/11.5 以上	計	3° 以下	3° ～ 8°	8° ～ 15°			15° ～ 20°	20° 以上	計	最高	最低	
										8° ～ 10°	10° ～ 15°	8° ～ 15°						
区画整理	面積 (ha)	—	—	48.4 48.8	—	—	48.4 48.8	1.1 1.1	—	—	—	—	—	—	1.1 1.1	117	76	
	比率 (%)	—	—	100.0	—	—	100.0	100.0	—	—	—	—	—	—	100.0			
合計	面積 (ha)	—	—	48.4 48.8	—	—	48.4 48.8	1.1 1.1	—	—	—	—	—	—	1.1 1.1			
	比率 (%)	—	—	100.0	—	—	100.0	100.0	—	—	—	—	—	—	100.0			

(2) 地質及び土壌

本地区の土壌はD32（強グライ土壌－粘土還元型）及びD34（強グライ土壌－壤土還元型）である。

3. 水利状況

(1) 用水状況

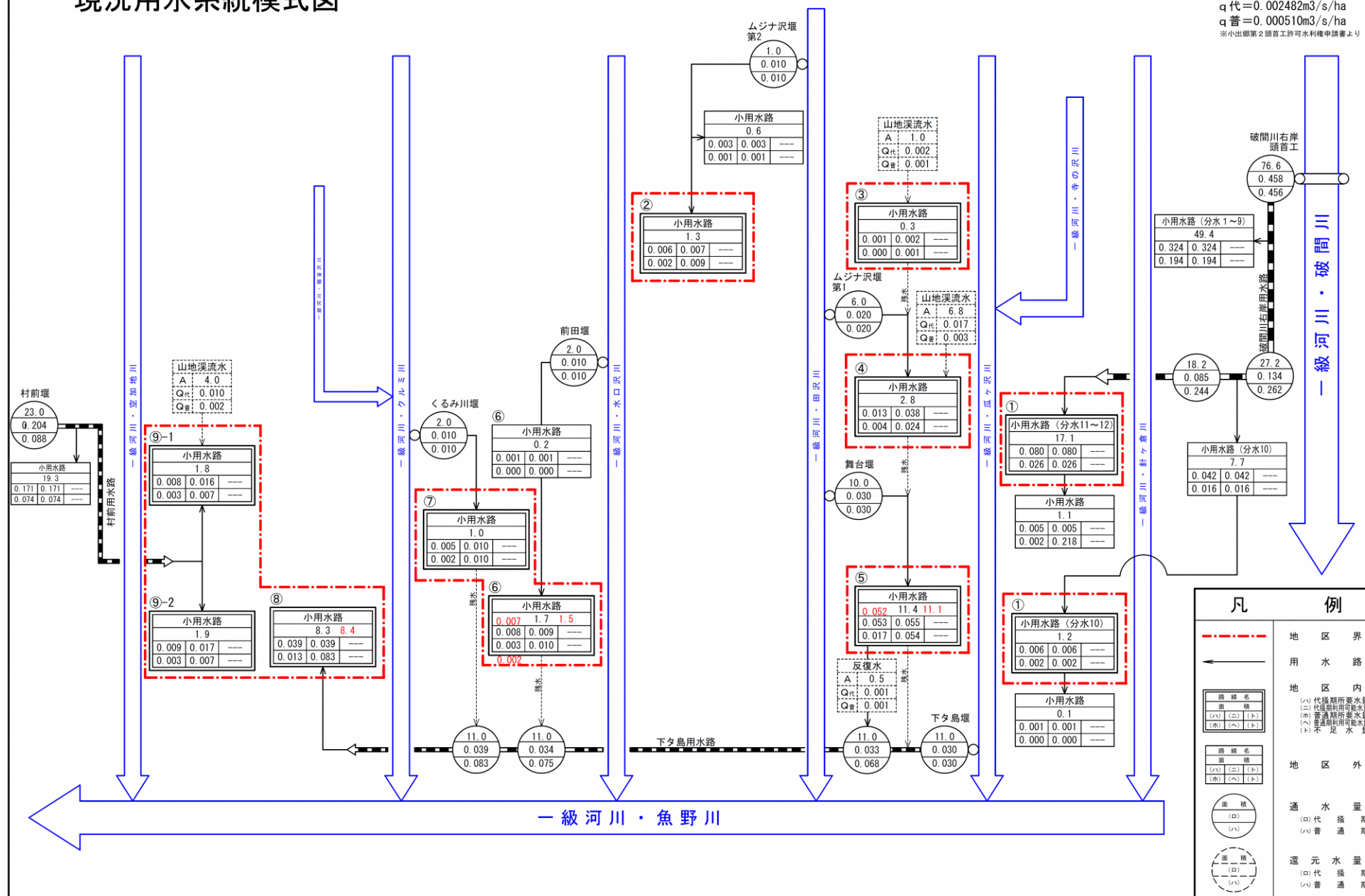
本地区の用水系統は、破間川右岸用水及び村前用水が許可水利権である他は、慣行水利権により取水している状況となっている。

(ア) 用水系統

現況用水系統模式図のとおり。

變更前：黒

◇山地溪流水 比流量
 $q_{代}=0.002482\text{m}^3/\text{s}/\text{ha}$
 $q_{普}=0.000510\text{m}^3/\text{s}/\text{ha}$
 ※小出郷第2頭首工許可水利権申請書より



変更後：赤
変更前：黒

(イ) 用水施設

事業名	項目 施設名	か ん が い 面 積						計		水 利 権		慣行水利権		延べ取水量	備 考
		500ha 以上		500ha～100ha		100ha 未満									
	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	m³/s	箇所	m³/s	m³/s		
区画整理	貯 水 池	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	井 堰	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	自然取入口	—	—	—	—	8	48.1 48.5	8	48.1 48.5	2	0.125 0.260	6	0.110 0.110	0.235 0.370	
	揚 水 機	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	そ の 他	—	—	—	—	—	0.3	—	0.3	—	—	—	—	0.064 0.080	渓流水他
合 計		—	—	—	—	8	48.4 48.8	8	48.4 48.8	2	0.125 0.260	6	0.110 0.110	0.299 0.450	

※水利権は、上段：代掻期，下段：普通期

(ウ) 改修を要する施設一覧表

事業名	項目 施設名	施設名 又は 箇所数	受益面積 (ha)	構 造	規 模	新設年 又は 更新年	改 修 を 必 要 と す る 理 由	備 考
区画整理	貯 水 池	—	—	—	—	—	—	
	井 堰	—	—	—	—	—	—	
	自然取入口	—	—	—	—	—	—	
	揚 水 機	—	—	—	—	—	—	
	用 水 路	小用水路	48.4 48.8	BF、土水路	L=8.2km	昭和40年代	区画整理による改修及び廃止	
	そ の 他	—	—	—	—	—	—	
合 計		—	48.4 48.8	—	—	—	—	

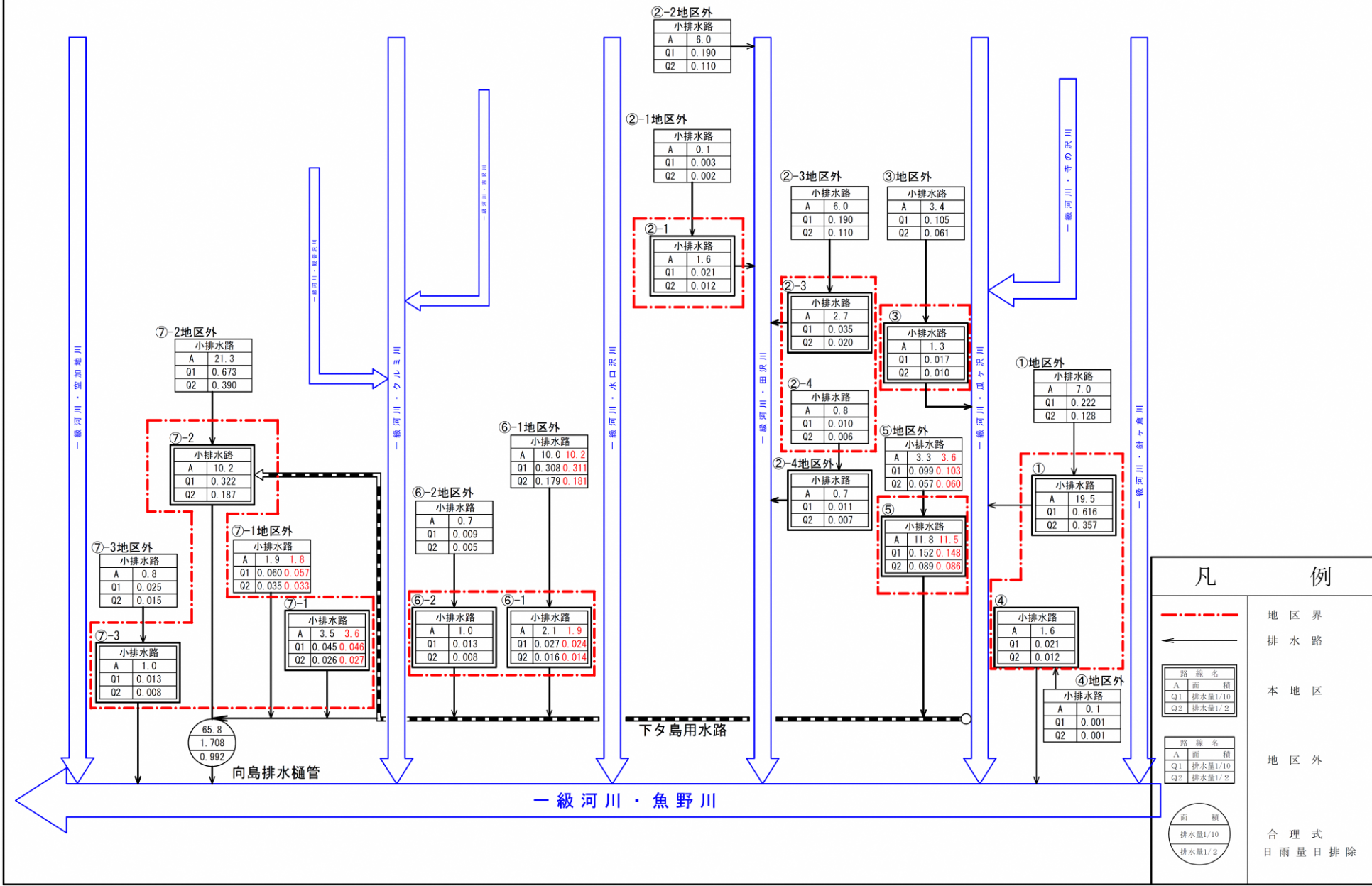
(2) 排水状況

本地区の排水系統は、小排水路を経て一級河川魚野川や支流の河川に自然排水される。

(ア) 排水系統

現況排水系統模式図のとおり。

現況排水系統模式図



(イ) 排水施設

変更後：赤
変更前：黒

事業名	項 目 施 設 名		排 水 面 積						計		排水慣行 (m³/s)	現況排水能力 (m³/s)	備 考
			500ha 以上		500ha～100ha		100ha 未満						
	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha					
区画整理	自然	排 水 路	—	—	—	—	7	56.7 57.1	7	56.7 57.1	3.188	3.188	
		水 門	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	機械	排 水 機	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		水門及び排水機	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		排水路及び排水機	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
計			—	—	—	—	7	56.7 57.1	7	56.7 57.1	3.188	3.188	

(ウ) 改修を要する施設の一覧表

事業名	項 目		施設名又は 箇所数	受益面積 (ha)	構 造	規 模	新設年又は 更新年	改修を必要とする理由	備 考
	施 設 名								
区画整理	自然	排 水 路	小排水路	56.7 57.1	BF、土水路	L=5.8km	昭和40年代	区画整理による改修及び廃止	
		水 門	—	—	—	—	—	—	
	機械	排 水 機	—	—	—	—	—	—	
		水門及び排水機	—	—	—	—	—	—	
		排水路及び排水機	—	—	—	—	—	—	
計			—	56.7 57.1	—	—	—		

4. 河川状況
該当なし

5. 道路概況
本地区の道路状況は、主要地方道柏崎高浜堀之内線他、県道が地区に接している他、魚沼市認定市道が地区内外に存在している。

6. 営農状況
農業生産は市場評価の高い「魚沼米」を主とした水稻栽培が大半を占めているが、生産基盤の状況が悪く、多大な労力を費やしている。併せて農業従事者の高齢化と後継者不足の問題が生じ、担い手の確保が困難な状況である。

第4節 地域環境の概況

1. 植物・動物等生態系の概況

令和4年6月9日に行われた『生きもの調査』から地区内及び周辺地域においては、

魚 類【ドジョウ、ギンブナ】

貝 類【マツカサガイ、オオタニシ、カワニナ、マシジミの仲間】

甲殻類【アメリカザリガニ、ミジンコ】

両生類【アマガエル、オタマジャクシ（ヤマアカガエル、ツチガエル）、トノサマガエル】

昆虫類【ヤゴ（シオカラトンボ）、ミズスマシ、コガムシ（幼虫）、シオカラトンボ、ユスリカ】

鳥 類【ウグイス、ヒヨドリ】

植物類【コカナダモ、オオキンケイギク】

以上が確認された。いずれも、河川、水路、湿地、泥地等を生息・繁殖環境とする動植物である。また、地元聞き取りでは周辺地域でヘイケボタルやゲンジボタルも生息しているとの事であった。

2. その他、地域環境の概況

本地区は、魚沼市農村環境計画における『定住環境創造エリア』となっており、その中でも生産性の高い農業生産団地として魚沼市の食料基地となる「農業生産団地ゾーン」に含まれる。動植物の生息生育環境に配慮した農業生産基盤の整備と環境保全型農業の実施、農地や農業用排水施設・農道施設の維持管理・保全活動を行うエリアであると共に農業生産・加工・販売だけでなく、「滞在型市民農園の経営」、「農家民宿」、「農業体験ツアー受け入れ」、「環境学習の場提供」、「農業教育・食育の場提供」などの滞在型交流事業を多角的に取り入れた農業経営（滞在型交流農業）と魚沼農産物の『食の安全・安心』を内外にアピールする整備を目標とする。環境負荷軽減対策として環境保全型農業を推進する。

第3章 基本計画

第1節 事業計画の要旨

1. 要 旨

45.7ha

本計画は、区画整理46.1haを施工することで、労働生産性の向上を目指し、農地の集積・経営規模の拡大をするとともに高収益作物の栽培や機械の大型化による低コスト型農業を確立し、農業経営の安定化の実現に資する区画整備を実施するものである。

区画割りは、地区の形状および将来の営農体系等を勘案して、30～50a区画を基本とし整備を行う。道路計画は支線道路として全幅6.0～4.0m（有効幅員5.0～3.0m）の敷砂利舗装を基本とする。用水計画は、水管理の合理化、水路の維持管理労力の節減を図るために自然圧パイプライン方式または開水路方式でかんがいを行い、排水計画は開水路形式とする。

45.7ha

また、湿田解消のために暗渠排水を46.1haに実施する。

2. 事業別面積

変更後：赤
変更前：黒

事業名 土地利用 区分 事業目的	区 画 整 理						計 (ha)	備 考
	水 田 (ha)	普 通 畑 (ha)	牧 草 畑 (ha)	道 水 路 (ha)	そ の 他 (ha)	小 計 (ha)		
区画整理	45.7 46.1	—	—	10.5 10.5	0.5 0.5	56.7 57.1	56.7 57.1	
計	45.7 46.1	—	—	10.5 10.5	0.5 0.5	56.7 57.1	56.7 57.1	

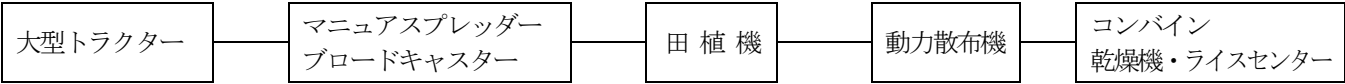
3. 環境との調和への配慮

本地区の保全対象種を「ドジョウ」として設定し、比較的、一年を通して水辺が残る排水路の一部に環境配慮型水路を設置し、水路内の動植物の生息・繁殖空間を確保する。

第2節 営農計画及び土地利用計画

1. 営農計画の概要

- a) 経営方式：水稻転作複合 水稻 + 加工トマト他
- b) 経営組織：組織経営体と個別経営体による、効率的な複合営農の実現を図る。
- c) 作業体系：(水稻) 耕起整地 → 基 肥 → 植 付 → 除草防除 → 収穫調製



2. 土地利用区分

変更後：赤
変更前：黒

事業名	土地利用区分	水田	普通畑	牧草畑	果樹園	茶園	その他	小計	原野	山林	その他	計	備考
	区分	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	
区画整理	現況	48.4 48.8	1.1 1.1	—	—	—	—	49.5 49.9	—	0.1 0.1	7.1 7.1	56.7 57.1	
	計画	45.7 46.1	—	—	—	—	—	45.7 46.1	—	—	11.0 11.0	56.7 57.1	
計	現況	48.4 48.8	1.1 1.1	—	—	—	—	49.5 49.9	—	0.1 0.1	7.1 7.1	56.7 57.1	
	計画	45.7 46.1	—	—	—	—	—	45.7 46.1	—	—	11.0 11.0	56.7 57.1	

第3節 用水計画

1. 計画基準年

基準年：2009年（1/10確率渇水年）

決定理由：「水文統計資料〔第14版〕 令和3年8月 新潟県農地部」小出観測所による。

2. 計画かんがい方式

a) かんがい期間

水田（水稲）：5月1日～9月15日（代掻5日間） 計 138日

b) かんがい方式

水 稲：一筆毎の田面貯留方式

畑作物：畝間かんがい

3. 計画用水系統

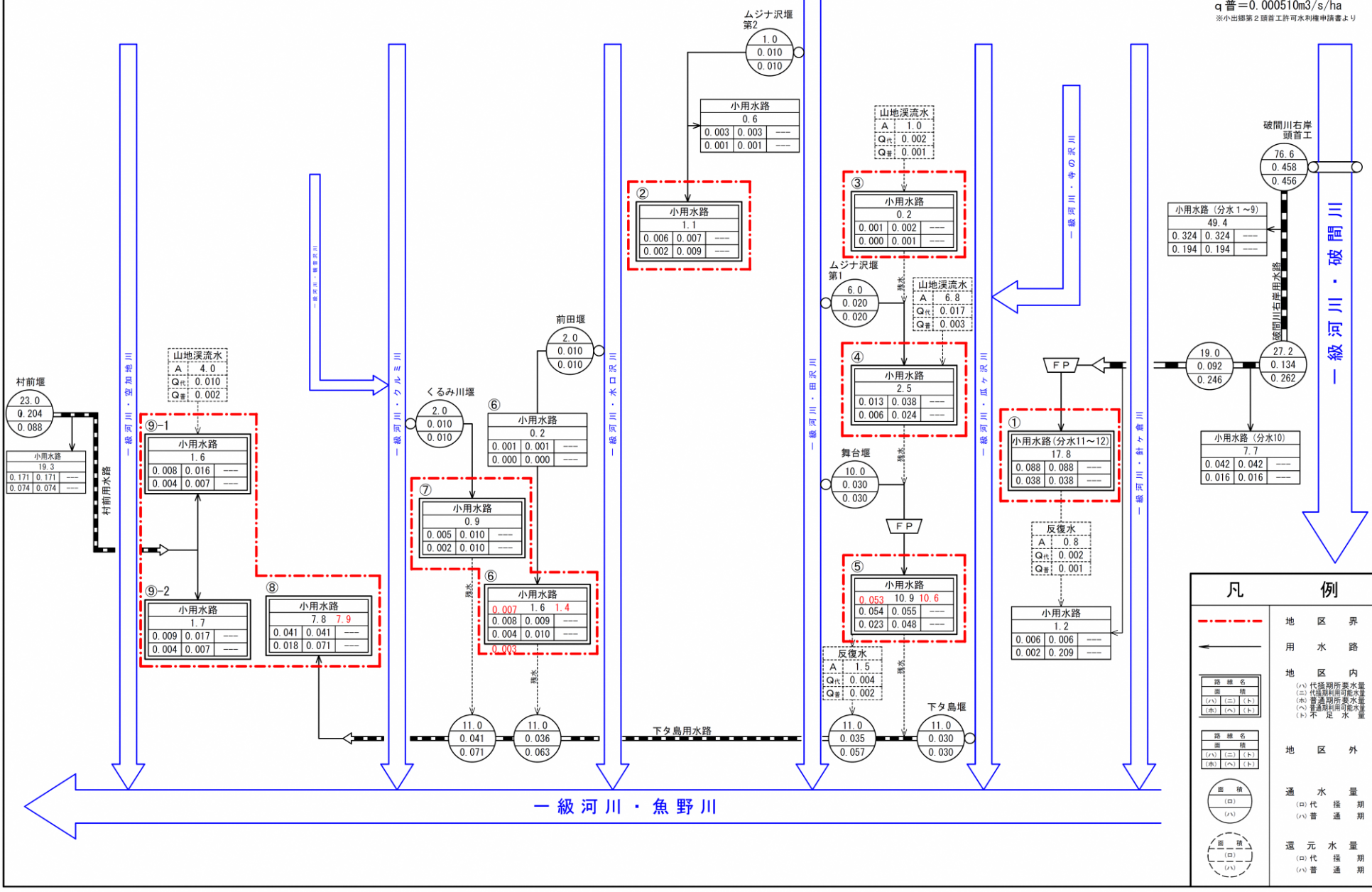
本地区の用水系統は、破間川右岸用水及び村前用水が許可水利権である他は、慣行水利権により取水しかんがいはする。

計画用水系統模式図のとおり。

変更後：赤
変更前：黒

計画用水系統模式図

◇山地溪流水 比流量
q代=0.002482m³/s/ha
q普=0.000510m³/s/ha
※小出郷第2頭首工許可水利権申請書より



変更後：赤

変更前：黒

4. 計画用水量

系統名	項目 種別	面積 (ha)		水田かんがい			水田畑利用			畑地かんがい			その他		消費 水量 (m³/s)	損 失 率 (%)	粗用水量		備考
		事業名		普通期 計画平均 単位用水量 (mm/日)	代かき期 計画代かき 単位用水量 (mm)	面 積 (ha)	1日当たり 計画平均 かん水深 (mm/日)	平均 間断 日数 (日)	面 積 (ha)	1日当たり 計画平均 かん水深 (mm/日)	平均 間断 日数 (日)	面 積 (ha)	計画平均 単位用水量 (mm/日)	面 積 (ha)			平均	最大	
		区 画 整 理	計																
一級河川・破間川	農業 用水	17.8	17.8	16.7	150 (10.7)	17.8	25	3	(9.3)	—	—	—	—	—	0.079	10	0.038	0.088	
一級河川・田沢川		14.2 14.5	14.2 14.5	〃	〃	14.2 14.5				—	—	—	—	—	0.063 0.065	平均 11	0.030 0.031	0.072 0.073	
山地渓流水		0.2	0.2	〃	〃	0.2				—	—	—	—	—	0.001	15	0.000	0.001	
一級河川・水口沢川		1.4 1.6	1.4 1.6	〃	〃	1.4 1.6				—	—	—	—	—	0.006 0.007	〃	0.003 0.004	0.007 0.008	
一級河川・クルミ川		0.9	0.9	〃	〃	0.9				—	—	—	—	—	0.004	〃	0.002	0.005	
一級河川・瓜ヶ沢川		7.9 7.8	7.9 7.8	〃	〃	7.9 7.8				—	—	—	—	—	0.035	〃	0.018	0.041	
一級河川・芋川		3.3	3.3	〃	〃	3.3				—	—	—	—	—	0.015	〃	0.008	0.017	
計		45.7 46.1	45.7 46.1	—	—	45.7 46.1	—	—	(9.3)	—	—	—	—	—	0.203 0.206	—	0.099 0.101	0.231 0.233	

5. 水源計画

(1) 水利用計画

区分	項目	消費水量	有効雨量	純用水量	粗用水量	現況利用可能水量			不 足 水 量		水源依存量		水源 工種	備考
						水源名	取水地点 利用可能量	ほ場利用 可 能 量	純不足 水 量	全不足 水 量	水源名	水 量		
		a (千m³)	b (千m³)	c = a - b (千m³)	d = c / (1 - α) (千m³)		e (千m³)	f (千m³)	g = c - f (千m³)	h = d - e (千m³)		(千m³)		損失率 : α
区 画 整 理	水 田 かん が い	837	—	837	951	一級河川・破間川他	951	951	—	—	一級河川・破間川他	951	管水路 開水路	10% 15%
	計	837	—	837	951		951	951	—	—		951		—

第4節 排水計画

1. 計画基準雨量

○基準雨量：最大日雨量 139.3mm/day（1/10確率） 水文統計資料〔第14版〕（R3.8新潟県農地部）小出観測所より
 最大日雨量 80.7mm/day（1/2確率） //

2. 計画排水方式

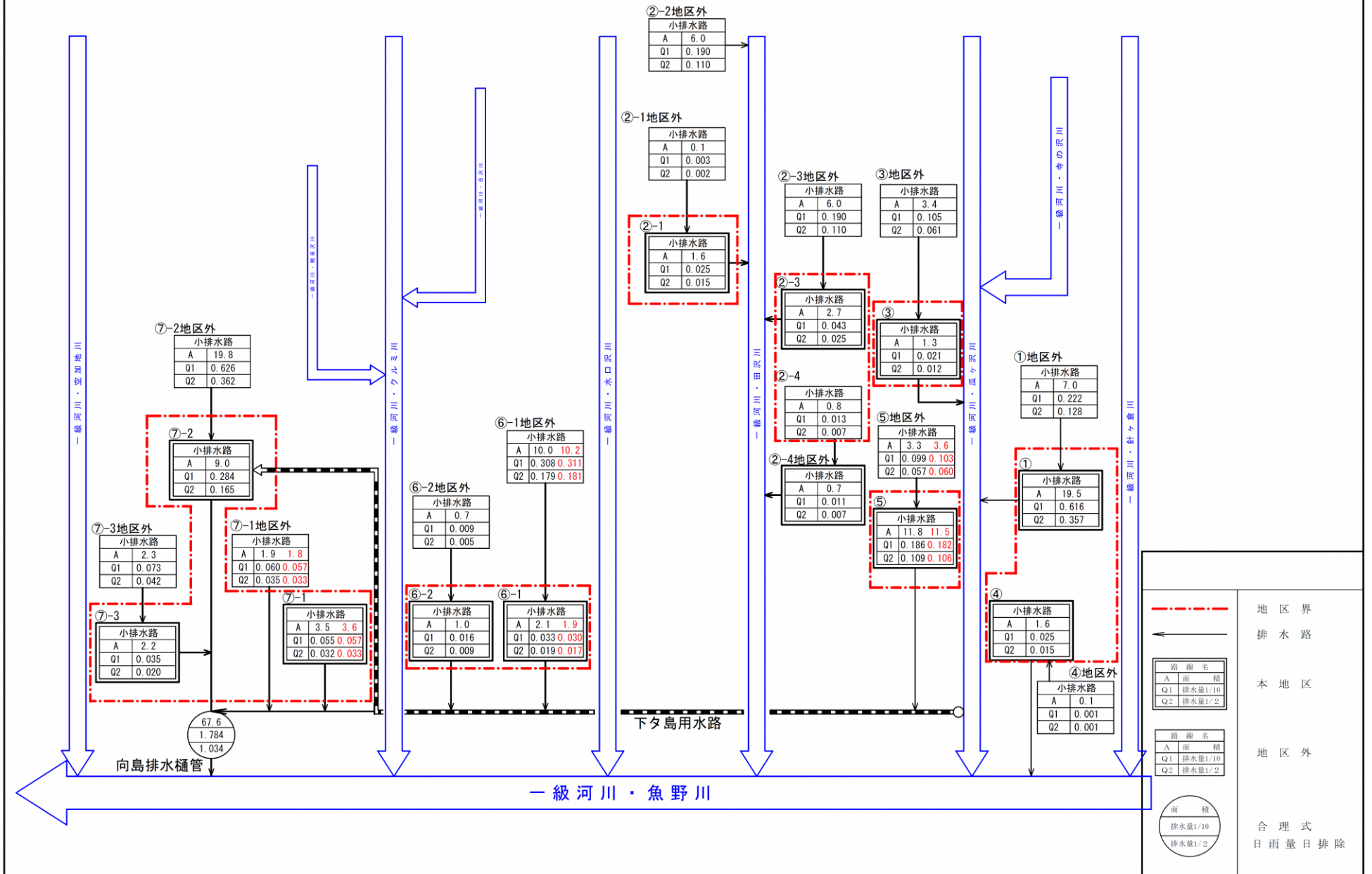
a) 単位排水量の決定

区 分	算 定 方 式	基 準 雨 量	流出率	（1/年確率）別	算 出 基 準	単 位 排 出 量
小 排 水 路 （ 水 田 ）	日 雨 量 日 排 除	139.3 mm/日	80 %	1/10年確率	$139.3 \times 0.80 \times 10 / 86,400$	0.0129 m ³ /s/ha
		80.7 mm/日		1/2年確率	$80.7 \times 0.80 \times 10 / 86,400$	0.0075 m ³ /s/ha
小 排 水 路 （ 輪 換 田 ・ 畑 ）	4 時 間 雨 量 4 時 間 排 除	56.87 mm/4hr	40 %	1/10年確率	$56.87 \times 0.40 \times 10 / 14,400$	0.0158 m ³ /s/ha
		32.95 mm/4hr		1/2年確率	$32.95 \times 0.40 \times 10 / 14,400$	0.0092 m ³ /s/ha
小 排 水 路 （ 山 地 ・ 宅 地 等 ）	合 理 式	28.43 mm/hr	40 %	1/10年確率	$28.43 \times 0.40 \times 10 / 3,600$	0.0316 m ³ /s/ha
		16.47 mm/hr		1/2年確率	$16.47 \times 0.40 \times 10 / 3,600$	0.0183 m ³ /s/ha

3. 計画排水系統

小排水路を経て一級河川魚野川や支流の河川に自然排水する。
 計画排水系統模式図のとおり。

計画排水系統模式図



4. 計画排水量

変更後：赤

変更前：黒

排水 系統名	項目		受 益 面 積 (ha)		流 域 面 積 (km ²)	基準 雨量 (mm)	降雨による 直接単位流出量 (m ³ /s/km ²)		基底流出量 (m ³ /s/km ²)		全 排 水 量 (m ³ /s)			単位排水量 (m ³ / s /km ²)		備 考		
	事 業 名		区画整理	計			山 地	平 地	山 地	平 地	山 地	平 地	山 地	平 地			山 地	平 地
														自然排水	機械排水			
一級河川・瓜ヶ沢川	20.8	20.8	0.099	0.213	139.3	3.16～ 1.83	1.58～ 0.75	—	—	0.313	0.651	—	3.16～ 1.83	1.58～ 0.75				
一級河川・田沢川	5.1	5.1	0.122	0.057	〃	〃	〃	—	—	0.386	0.089	—	〃	〃				
一級河川・魚野川	30.8 31.2	30.8 31.2	0.355	0.338	〃	〃	〃	—	—	1.122	0.688	—	〃	〃				
計	56.7 57.1	56.7 57.1	0.576	0.608	—	—	—	—	—	1.821	1.428	—	—	—				

第5節 道 路 計 画

1. 道路

項 目 路線名	幅 (有効) (m)	× 延長 (km)	構 造	既設道路との関係	備 考
支線道路	6.0～4.0 (5.0～3.0)	× 7.6	道路高0.3m～、側法 1:1.0～、 敷砂利舗装、流用土	県市道、農道と接続	

2. 索道

該当なし

第6節 農用地造成計画

該当なし

第7節 農用地整備計画

1. 区画整理

変更後：赤
変更前：黒

(1) 区画の形状

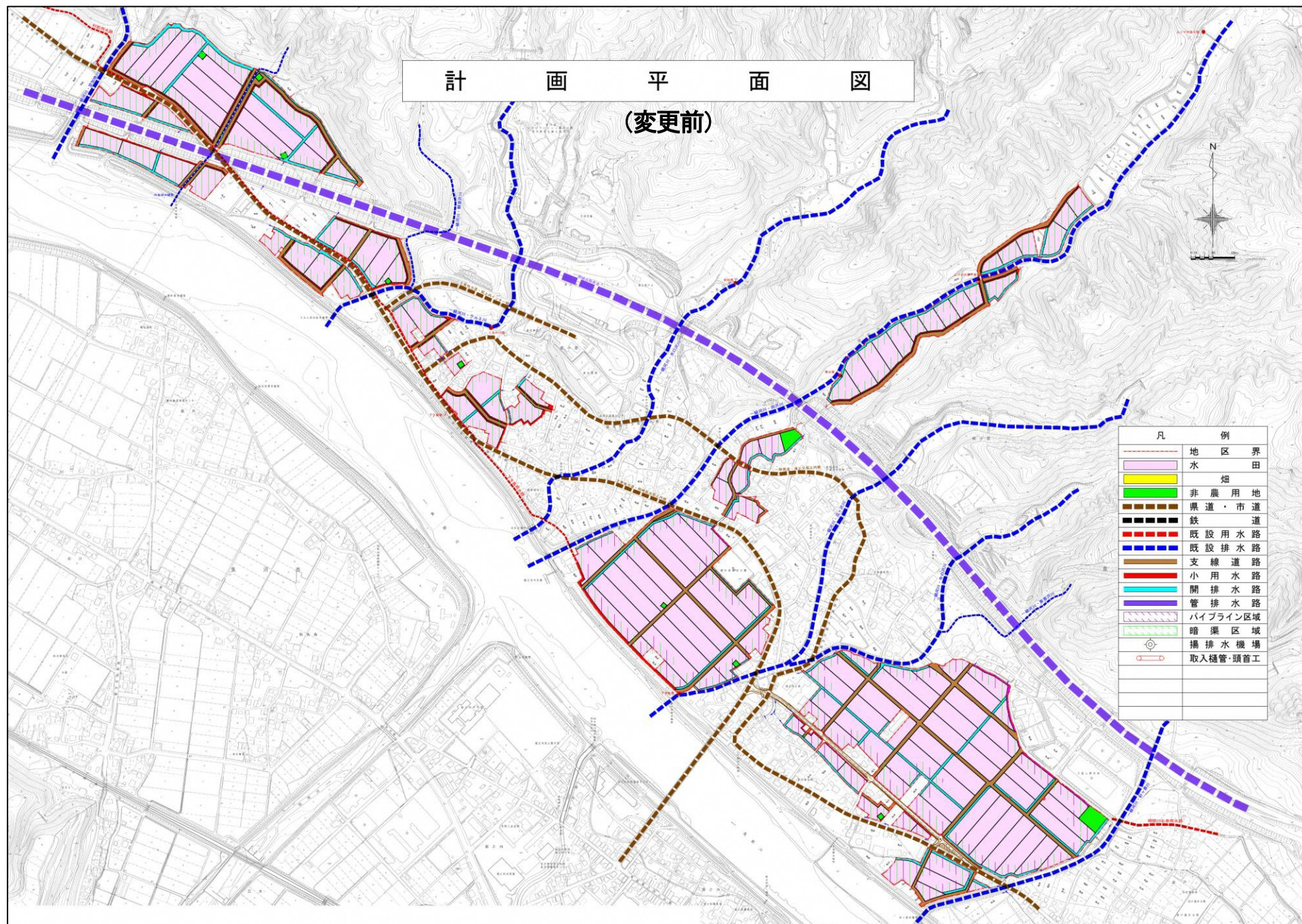
長 辺 × 短 辺 (m)	区 画 面 積 (ha)	全 体 面 積 (ha)	割 合 (%)	田 面 差 (m)	備 考
150×35～100×30m	～ 20 a	4.6 4.7	10.1 10.2	平均 0.4	
	20 a ～ 50 a	31.4 31.7	68.7 68.8		
	50 a ～ 1 ha	9.7	21.2 21.0		
	1 ha ～	—	—		
計		45.7 46.1	100.0		

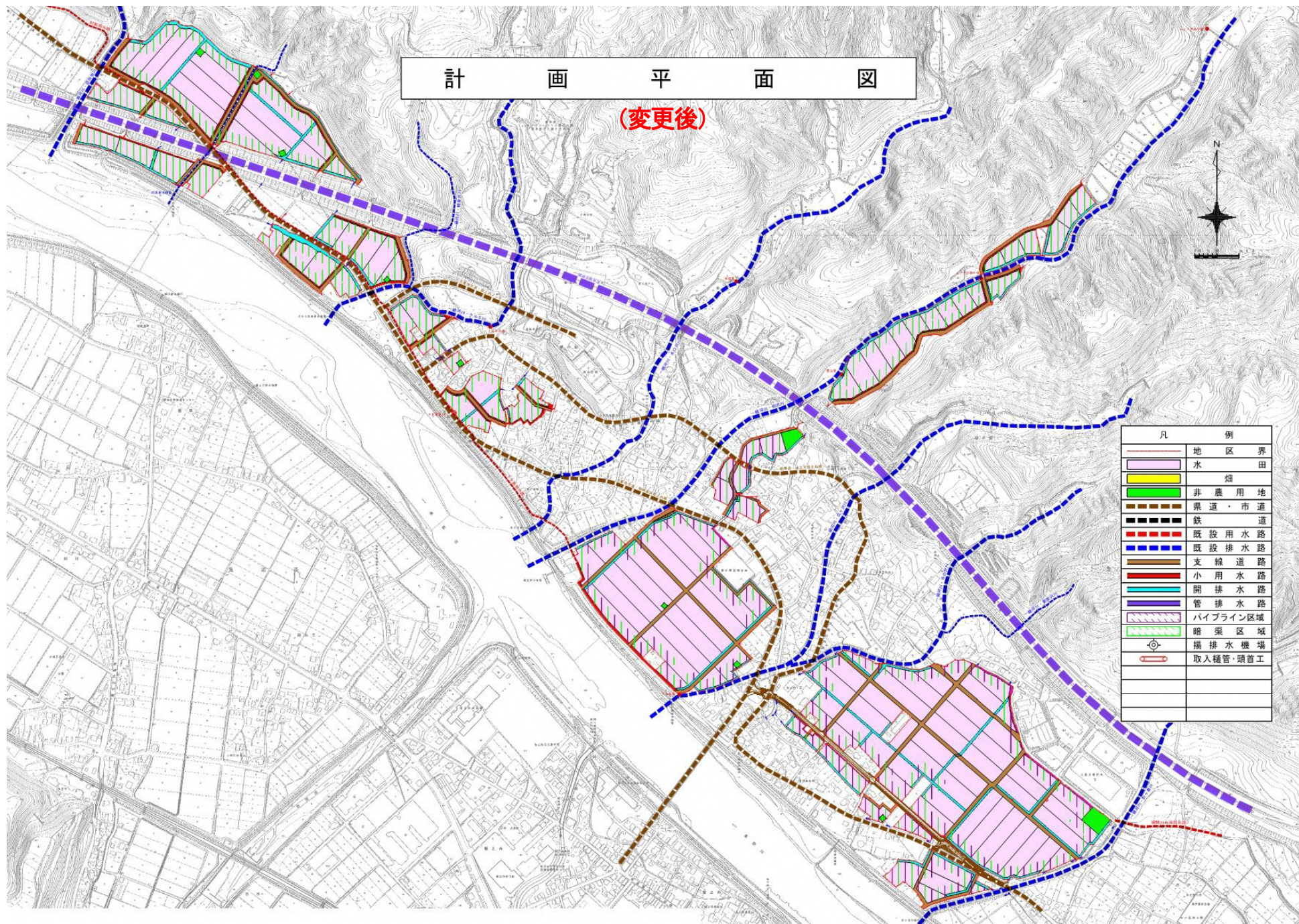
(2) 表土扱い

面 積 (ha)	表 土 扱 い 要 否 の 理 由	扱 い 深 (cm)	土 量 (m ³)	備 考
45.7 46.1	要：土壌調査の結果及び地盤切盛を行うため	15	68,850 69,150	

(3) 末端道水路配置図

次頁 計画平面図のとおり





2. 暗渠排水

(1) 暗渠排水

変更後：赤
変更前：黒

項 目 区 分		面 積 (ha)			土 壌 統 (区) 名	基 準 雨 量 (mm/日)	単 位 排 水 量 ($\frac{\text{t}}{\text{s}}/\text{s}/\text{ha}$)	計 画 後 の 地 下 水 位 (m)	集 水 渠 出 口 以 下 の 排 水 方 法	備 考
		事 業 名								
		区画整理		計						
田	D32	13.5 13.6		13.5 13.6	D32 強グライ土壤－粘土還元型	50	5.8	0.50	自然排水	
	D34	32.2 32.5		32.2 32.5	D34 強グライ土壤－壤土還元型	〃	〃	〃	〃	
	小計	45.7 46.1		45.7 46.1						
畑										
	小計	—		—						
計		45.7 46.1		45.7 46.1						

(2) 心土破碎

該当なし

3. 客 土

該当なし

4. 農地保全

該当なし

第4章 工事又は管理の要領

変更後：赤
変更前：黒

第1節 工事の内容

施設名	項目	工事内容	事業量	規模・構造	備考
水田、畑		整地工	45.7 46.1 ha	表土扱い15cm	
農道	道路工	幹線	— km		
		支線他	7.6 km	6.0～4.0(5.0～3.0)m、敷砂利舗装	
		連絡道	— km		
用水路	用水路工	幹線	— km		
		支線他	8.2 km	VUφ100～400mm、BF300～350型	
		用水施設	1.0 式	FP：2箇所	
排水路	排水路工	幹線	— km		
		支線他	7.9 km	HF300×300～800×600型	
暗渠排水		暗渠排水工	45.7 46.1 ha	地下かんがい対応型 素焼陶管、塩ビ管 φ75～100mm	

第2節 管理の要領

1. 管理者

施設名	管理者	備考
農道、用排水路、ファームポンド	魚沼市土地改良区	

2. 管理方法に関する基本的事項

本事業において造成される施設については、魚沼市土地改良区が維持管理計画に基づき適正な管理を行う。

第5章 換地計画の要領

1. 換地計画樹立の必要性

本事業を契機に、農用地等の集団化の向上はもとより、地域農業の発展に資するよう換地計画を樹立する。

特に同計画をもとに地権者との合意形成を図り、農地中間管理権設定を換地と一体的に行い、望ましい経営体へ円滑に農地利用集積されるよう土地利用調整を行う。

2. 換地計画樹立の基本方針

(1) 従前の土地の地積の基準

換地区名	地 積 の 基 準
全換地区	換地交付の基準とする従前の土地の地積は、土地改良事業計画決定の日の登記地積とする。 ただし、上記の日から3ヶ月以内に測量士、測量士補又は土地家屋調査士の測量した実測図及び隣接所有者の同意書を添付して申し出があった場合には、その申し出のあった地積とする。

(2) 農用地集団化の方法

区 分 換地区名	地帯別、グループ別 団地の設定	個 人 別 換 地 の 方 法		
		位 置 の 選 択 方 法	1戸当たり目標団地数	区画畦畔の取扱い
全換地区	1. 集落別集団化 集落毎の出入作を解消し、集落単位の管理が容易となるよう、集落別の集団化を進める。 2. 営農グループ別集団化 担い手農家等の育成及び確保を図るとともにこれらを団地化して農用地の面的集積を積極的に進める。	各人の従前の土地条件（区画形状・日照等）を基準に、意向調査等の結果を踏まえて位置を選定し、集団化を図る。	各農家の農地はできるだけ大規模に集団化を図るものとし、1戸当たりの団地数は、概ね1～2団地を目標とする。	固定畦畔

(3) 非農用地の換地方法

区 分 換地区名	種 類	非農用地区域の位置の概略	面 積 (㎡)	換地の手法	換地取得予定者	その他
全換地区	鉄塔用地	おおむね従前のおおむね	1,178	特定用途用地換地	従前の土地所有者	

(4) 清算の方法

増価額比例地積清算方法

3. 土地改良法第5条第6項に規定する国有地等の編入承認に係る地積

区 分 用 途	機能交換に係る土地 (ha)				一般国公有地 (ha)	合 計 (ha)	備 考
	国有地	都道府県有地	市町村有地	計			
道 水 路	—	—	6.4	6.4	—	6.4	
計	—	—	6.4	6.4	—	6.4	

4. 換地処分の特則

換地区内の区画形状の変更に係る工事が全て完了し、確定測量が実施されたときは、土地改良法第89条の2第10項で準用する同法第54条第2項本文の規定にかかわらず、換地処分ができるものとする。

第6章 費用の概算

変更後：赤

変更前：黒

単位：千円

事業名 区 分	区画整理		計		合 計	備 考
主 要 工 事	1,820,300 1,837,500		1,820,300 1,837,500		1,820,300 1,837,500	30,000 内工事雑費 30,625 56,300 内地方事務費 56,875
附 帯 工 事	—		—		—	
計	1,820,300 1,837,500		1,820,300 1,837,500		1,820,300 1,837,500	

単位：千円

事業名等	区 分	工 事 費				工 事 雑 費				地 方 事 務 費			
		国	県	市町村	地元	国	県	市町村	地元	国	県	市町村	地元
区画整理	負 担 率	62.5%	27.5%	10.0%	— %	—	100.0%	—	—	—	100.0%	—	—
	負担金額	1,083,750 1,093,750	476,850 481,250	173,400 175,000	—	—	30,000 30,625	—	—	—	56,300 56,875	—	—
合 計	負 担 率	62.5%	27.5%	10.0%	— %	—	100.0%	—	—	—	100.0%	—	—
	負担金額	1,083,750 1,093,750	476,850 481,250	173,400 175,000	—	—	30,000 30,625	—	—	—	56,300 56,875	—	—

第7章 効 用

変更後：赤
変更前：黒

事業名	区 分	項 目	年総効果（便益）額 （千円）	増加見込所得額 （千円）	備 考 （千円）
区 画 整 理	作 物 生 産 効 果		28,940 29,193	7,991 8,061	総費用総便益比 = $\frac{2,336,264}{2,356,713} = 1.33$ $\frac{1,752,959}{1,768,302}$
	営 農 経 費 節 減 効 果		89,465 90,248	93,340 94,157	増加所得償還率 = $\frac{-}{-} \times 100 = -\%$
	維持管理費節減効果		△ 49 △ 49	△ 49 △ 49	
	耕 作 放 棄 防 止 効 果		0 0	—	
	農業労働環境改善効果		7,189 7,252	—	
	景 観 ・ 環 境 保 全 効 果		1,766 1,781	—	
	国産農産物安定供給効果		4,392 4,430	—	
	計		131,703 132,855	101,282 102,169	

第8章 他の事業との関係

該当なし

第9章 計画概要図

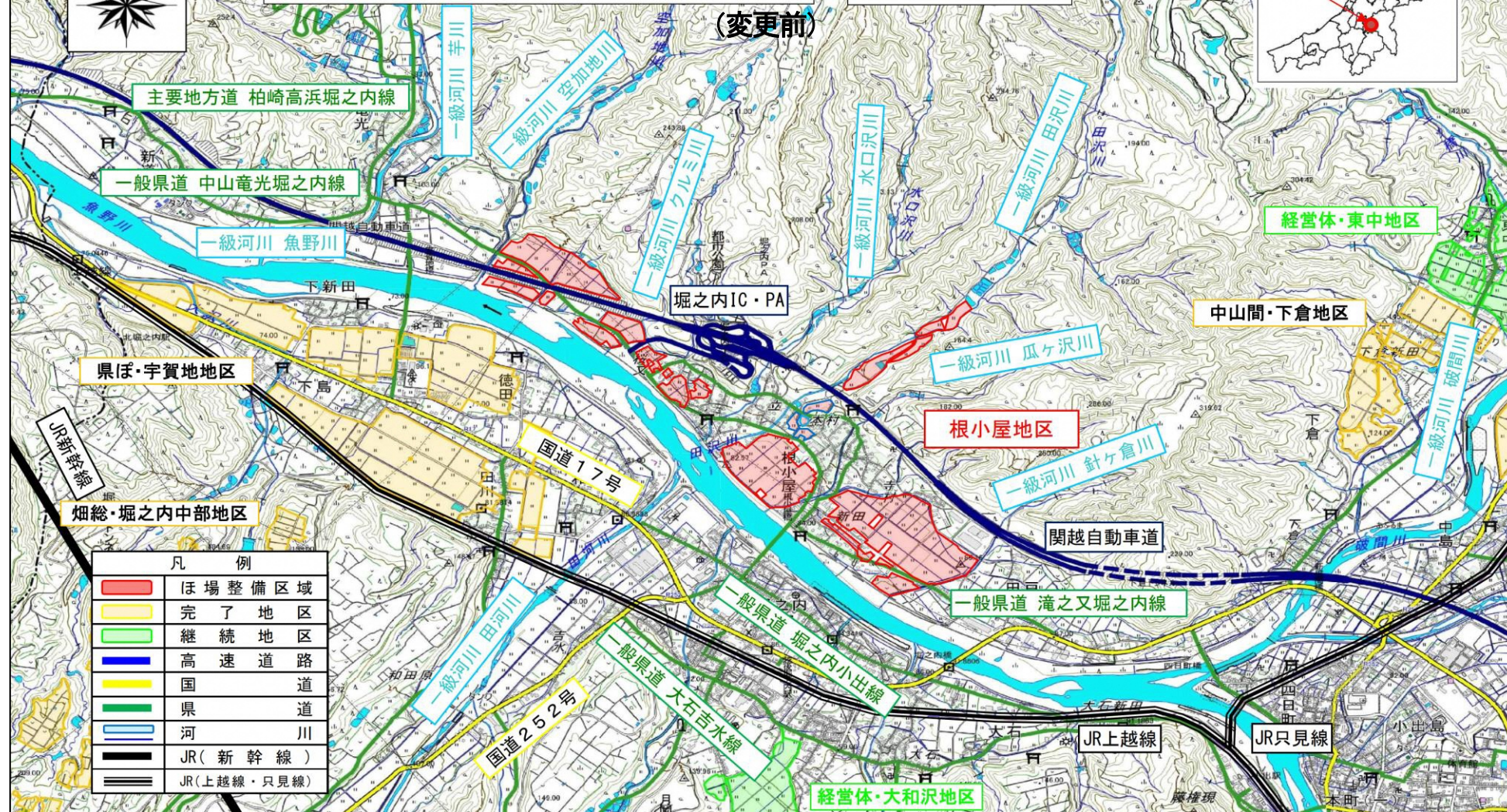
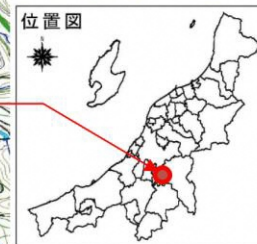
別紙図面のとおり。

令和6年度 新規採択希望（着工地区）区画整理（経営体育成基盤整備「農地中間管理機構関連型」）事業

新潟県 根小屋地区 計画一般図

縮尺 1:25,000

(変更前)

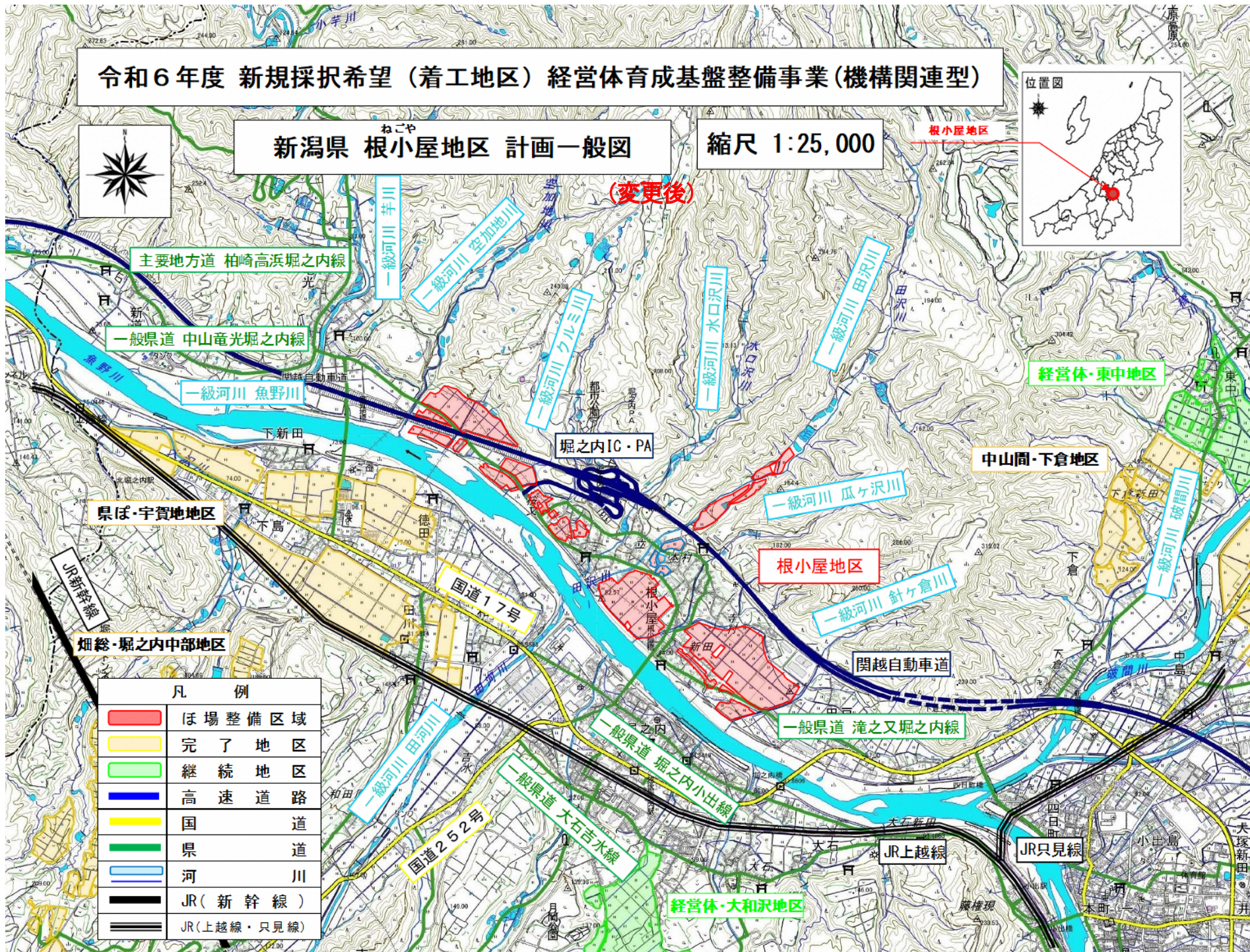


凡 例	
	ほ場整備区域
	完了地区
	継続地区
	高速道路
	国道
	県道
	河川
	JR(新幹線)
	JR(上越線・只見線)

令和6年度 新規採択希望（着工地区）経営体育成基盤整備事業（機構関連型）

新潟県 根小屋地区 計画一般図

縮尺 1:25,000



凡 例	
	ほ場整備区域
	完了地区
	継続地区
	高速道路
	国道
	県道
	河川
	JR(新幹線)
	JR(上越線・只見線)